

令和5年度
自己評価報告書

一般財団法人 岩手済生医会
岩手リハビリテーション学院

I 自己評価について

岩手リハビリテーション学院では『専修学校における学校評価ガイドライン』（文部科学省：平成25年3月）に基づき、学校評価実施規程を定め自己評価を行なっている。

II 自己評価委員会

委員長	齊藤 和好	学院長
委員	細川 康紀	副学院長
委員	佐藤 浩哉	理学療法学科長
委員	岡崎 謙治	作業療法学科長
委員	峯 智	事務長

III 対象期間

令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日

IV 各評価項目における取組状況

1. 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
2) 学校における職業教育の特色を持っているか	4
3) 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
4) 各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

【現状および課題】

- ・教育理念・目標・育成人材像などについてはホームページ・学生便覧への掲載を継続的に
行っている。また、学院見学説明会や入学時オリエンテーションにおいても伝えている。
- ・より具体的に教育方針を周知するため、3つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュ
ラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）も策定し、ホームページ等でも公開している。
- ・社会人に求められる素養の獲得に向け、外部講師による各種セミナーを実施した。
- ・就職説明会を両学科合同で行い、業界ニーズの把握に努めた。
- ・令和5年度においても新型コロナウイルス感染の影響を受け、対面での臨床指導者会議
や実習地訪問には支障を来しており、対面とWebのハイブリット形式で行いながら業界ニ
ーズの把握に努めた。

【対策】

- ・社会環境を踏まえながら、臨床実習指導者会議・実習地訪問・就職説明会等をできる限り
対面で行い業界ニーズの把握に努めていく。

2. 学校運営

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2) 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	4
4) 人事・給与に関する規程等は整備されているか	4
5) 教務・財務等の組織整備など、意思決定システムは整備されてい るか	4
6) 教育活動等に関する情報公開が適切に行われているか	4
7) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

【現状および課題】

- ・学校運営は学科会議・各業務会議等で協議の上、学院の意思決定機関である職員会議にて
意思決定を行っている。また、重要な案件に関しては、法人理事会に諮り承認を受けている。
- ・ホームページ管理において内容の変更（高度専門士称号付与について等）の遅れが改善し
きれなかった。
- ・学校生活・学業における情報共有や伝達システムの充実を図る目的でホームページに学生
掲示板を新設したが従来の書面掲示と併用したため活用度が低かった。

【対策】

- ・改めてホームページ管理体制の整備（チェック機能の強化等）を行う。
- ・学校生活・学業における情報共有や伝達システムの充実に向け、運用方法の再検討を行う。

3. 教育活動

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
1) 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2) 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3) 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5) 関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6) 関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7) 授業評価の実施・評価体制はあるか	2
8) 成績評価、単位認定、進級・卒業判定の基準が明らかになっているか	4
9) 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的位置づけはあるか	4
10) 人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	2
11) 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
12) 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4
13) 教員の能力開発のための研修会等が行われているか	3

【現状および課題】

- ・学科毎に人材育成要件（指定規則、教育ガイドライン、養成教育モデル・コア・カリキュラム等）を踏まえたカリキュラムの検討を行っている。
- ・臨床教育に関して令和5年度は両学科ともに臨床実習指導者会議をWebおよび対面のハイブリッドにて開催し、臨床実習指針等の共有を図り、臨床実習の進捗状況確認や情報交換は新型コロナウイルス感染状況を踏まえ電話・Web対応の施設もあったが、現地訪問を行う機会が増えた。
- ・授業評価に関しては、作業療法学科は学生に対し授業アンケートを実施し、授業の質の向上に役立っているが理学療法学科は授業評価を実施できなかった。
- ・成績評価においてGPA（Grade Point Average）導入を令和7年度施行に向け検討している。
- ・常勤教員には実務経験を有する者を配置している。専任教員数は作業療法学科7名で指定規則教員数を確保しているが、理学療法学科は退職教員の補充が滞り5名となり、指定規則人数に1名不足の状況となった。講義は非常勤講師にて対応したが、来年度は6名体制確保に向け求人活動を行った。

【対策】

- ・授業アンケート内容の吟味や活用方法の見直しを進めていく。
- ・業界が求める人材を把握する目的で臨床指導者(教育者)会議にてアンケート調査を行う。
- ・GPA（Grade Point Average）を令和7年度導入に向け準備を進める。
- ・令和6年4月の時点で専任教員数は理学療法学科6名、作業療法学科8名体制とはなったが、学生指導等の充実に向け理学療法学科教員数増員が必要と考え、引き続き8名体制を目指していく。

4. 学修成果

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 就職率の向上が図られているか	4
2) 資格取得率の向上が図られているか	4
3) 留年率の低減が図られているか	4
4) 退学率の低減が図られているか	2
5) 卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか	3
6) 卒業後のキャリア形成への教育活動がなされているか	3

※ 第 59 回国家試験について

理学療法学科	新卒受験者数	合格者数	合格率（全国）
	37 名	36 名	97.3%（95.2%）
	既卒受験者数	合格者数	合格率（全国）
	2 名	1 名	50%（33.4%）
	総受検者数	合格者数	合格率（全国）
	39 名	37 名	94.9%（89.2%）
作業療法学科	新卒受験者数	合格者数	合格率（全国）
	29 名	28 名	96.6%（91.3%）
	既卒受験者数	合格者数	合格率（全国）
	5 名	1 名	20%（33.3%）
	総受検者数	合格者数	合格率（全国）
	34 名	29 名	85.3%（84.1%）

《理学療法学科》

【現状および課題】

・第 59 回理学療法士国家試験の受験に対応するカリキュラムを設置し、模擬試験や個別指導を含めた体制を整備し指導を行ってきた。合格率 100%には届かなかったが全国合格率を上回ることができた。

【対策】

・次年度においても今年度同様に模擬試験や個別指導を進めるとともに学生の国家試験に対する意識高揚を図り、学習効率を高めるための学修方法指導を継続する。

《作業療法学科》

【現状および課題】

・第 59 回作業療法士国家試験受験は残念ながら新卒者 1 名（1 名が体調不良により未受検）、既卒者 4 名が不合格となった。

・不合格者の多くは資格取得に向けた意識の低さや学修方法の誤りなどが要因として考えられる。

【対策】

・学習面

最終学年前に学年毎の履修内容に併せた国家試験への意識付けを行わせる。

自分に合った学修方法を身につけるためのサポートを行っていく。

模擬試験、業者模試などを通して取得率の向上を目指していく。

・学習環境について

クラスの集団凝集性を高めるためイベントを企画し、入学時から構築するよう努める。

・その他

既卒生に対しては業者開催の通信添削指導の紹介も必要に応じて行う。

※留年者・退学者状況

－留年者－

理学療法学科 152名中0名 0%

作業療法学科 116名中0名 0%

－退学者－

理学療法学科 152名中7名 4.6%（1年生7名）

作業療法学科 116名中7名 6.0%（1年生5名、2年生2名）

《理学療法学科》

【現状および課題】

・学科の教育目標と学生の希望において齟齬があり、退学者が増加した。

【対策】

・学科教育目標について、実践のための教育手段までを含めて再構築する。

《作業療法学科》

【現状】

・担任制で学生個々の状況把握に努めていたが、学修面・自分自身の将来への展望・学習意欲等に課題をもった学生を導ききれなかった。

・自分自身の目標確認のため卒業生との懇談会、担任との面談など可能な限り1人で心理的にも閉鎖的にならないように努めるようにしている。

【対策】

・退学する要因の分析に努める必要がある。この点に関しては教員間のみならず学生、場合によってはご家族との共有等も含めて対応を執り行っていく。

5. 学生支援

評価項目	適切・・・	4
	ほぼ適切・・・	3
	やや不適切・・・	2
	不適切・・・	1
1) 進路・就職に関する支援体制は整備されているか		4
2) 学生相談に関する体制は整備されているか		2
3) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか		4
4) 学生の健康管理を担う体制は整備されているか		4
5) 課外活動に対する体制は整備されているか		3
6) 学生の生活環境への支援は行われているか		4
7) 保護者と適切に連携しているか		3
8) 卒業生への支援体制は整備されているか		3
9) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか		3
10) 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか		3

※学生相談

《理学療法学科》

【現状および課題、対策】

・学生の個別相談に対しては優先して対応するようにしたが、教員・学生間の信頼関係が希薄となり、十分に機能したとはいえなかった。学生の教員に対する信頼を回復するため、今まで以上に、より丁寧に学生と接する時間を増やしていく。

《作業療法学科》

【現状および課題、対策】

・学科内では担任以外の教員との相談の機会も希望があれば対応できるようにしており、学生は相談内容によって選択し相談している。

・課題としてプライバシーの保護は検討していく必要がある。

※指導体制等

【現状および課題】

理学療法学科において、『理想とする理学療法士の養成』を意識するあまり、学生に対し『こうあるべき』という指導姿勢が強くみられ、学生が教員に対し意見や考えを述べる雰囲気が育まれていなかった。また、一定のレベルに到達させるためには、個々の学生の資質に合わせた指導が必要ではあるが、学生の行動分析に基づく指導が中心で、学生の捉え方や考えに耳を傾けることが疎かになり、学生と教員の間には齟齬が生じてしまった。

令和5年12月に新学科長が就任し、組織の体制を変更し、学科の教育目標を見直している。学生指導は改善されてきているが、個々の学生が能動的学習を身につけるためには、講義手法や指導方法について今後も継続して取り組んでいく必要がある。

【対策】

- ・学院内に「よろず相談窓口」を設置しているが、新たに多角的な相談窓口を設け対応していく。
- ・能動的学習を身につけてもらうための講義手法や指導方法について今後も継続して改善を図っていく。

※保護者等との連携

《理学療法学科》

【現状および課題、対策】

- ・令和5年度においては、十分な連携を図ることが出来なかった。
- ・「保護者便り」等の発行を通じて、年間を通じて、意思疎通を図っていけるよう努める。

《作業療法学科》

【現状および課題、対策】

- ・学年毎に保護者に対する相談会の実施、年度末の保護者個別相談会の案内送付、年度ごとの学業成績書の送付、随時の相談を受け入れる体制を整備している。アンケート実施等により意見は集約しているが、対応は十分には執り行っていない部分がある。
- ・学科としては担任制の中で年2回成績通知、また毎年の保護者説明会などを通して連携できるように心がけている。問題がある場合は学科会議等を通して教員間で共有できるように対応している。
- ・令和6年度には「保護者便り」等の発行を予定している。

6. 教育環境

評価項目	適切・・・ 4
	ほぼ適切・・・ 3
	やや不適切・・・ 2
	不適切・・・ 1
1) 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2) 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制が整備されているか	4
3) 防災に対する体制は整備されているか	4

【現状および課題】

- ・指定規則改正に伴う必要備品の整備が完了した。
- ・設備・備品等の老朽化も見られており、新たに5か年計画を策定し、令和5年度は東面の外壁改修・窓枠の修繕を中心に行った。
- ・学院内防災体制の組織化を図り、災害への対応の指導・防災訓練をするとともに災害時対応自販機の設置等学内設備の整備を行っている。

【対策】

- ・令和6年度は南面外壁・非常階段等を改修する予定である。また、教育備品等の入れ替えも検討していく。

7. 学生受け入れ

評価項目	適切・・・ 4
	ほぼ適切・・・ 3
	やや不適切・・・ 2
	不適切・・・ 1
1) 学生募集活動は適正に行われているか	4
2) 学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか	4
3) 学納金は妥当なものになっているか	4

【現状および課題】

- ・学校見学説明会、学院ホームページでの情報公開、各高校への資料配布、募集要項・リーフレットの作成及び配布を行っている。
- ・テレビCMを活用し学院説明会の広報を行った。

- ・学院見学を希望する中学校・高校・個人は全て受け入れた。
- ・最低限の必要経費を目安とした学納金を設定している。

【対策】

- ・新型コロナウイルス感染状況によるが県内を中心に高校訪問を進めていく。
- ・業者や高校で企画している進路相談会や進路説明会は可能な限り参加し、学院見学を希望する中学校・高校・個人に対してもできる限り受け入れていく。

8. 財務

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 中長期的に学校の財産基盤は安定しているといえるか	3
2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか	3
3) 財務について会計監査が適正に行われているか	4
4) 財務情報公開の体制整備は出来ているか	4

【現状および課題、対策】

- ・法人としては病院経営も行っており、コロナの影響がみられている。
- ・指定規則改正や4年制移行に伴う一時的な支出増があるものの基盤としては安定しているが、入学志願者の確保に向けた対応の検討を継続的に行う必要がある。
- ・法人の財務情報をホームページ上に公開している。

9. 法令遵守

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3
2) 個人情報保護に関し、その保護のための対策が取られているか	4
3) 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
4) 自己評価結果を公開しているか	4

【現状および課題、対策】

- ・理学療法士・作業療法士養成施設等学校指定規則に則り運営している。
- ・個人情報保護については『個人情報の保護に関する規程』に基づき逐次説明と同意を実施し、知り得た情報については適宜保管している。
- ・昨年度より自己評価及び学校関係者評価を行い、自己点検を進め、その内容についてホームページ上に公開している。

10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・ 4
	ほぼ適切・・・ 3
	やや不適切・・・ 2
	不適切・・・ 1
1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2) 学生ボランティア活動を奨励支援しているか	4
3) 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

【現状および課題】

- ・他団体活動に対する備品貸し出しなどを行った。
- ・各地域の新型コロナウイルス感染状況を確認しながら、一部（障がい者スポーツ大会・盛岡シティマラソンなど）のボランティア派遣を行った。
- ・業界団体を經由した講師依頼や各種委嘱に対し可能な限り対応した。
- ・地域住民の健康増進に向けた支援体制は地域包括支援センターおよび地域住民代表との間で検討し実行した。

【対策】

- ・新型コロナウイルス感染状況にもよるが各種ボランティア活動に協力していく。
- ・業界団体を經由した講師依頼や各種委嘱に対する派遣を引き続き行っていく。
- ・地域包括支援センターと連携し地域の小学生に対して認知症啓発活動や地域住民に対する健康増進事業のサポートを継続して行っていく。
- ・近隣住民の健康増進に向けた取り組みを地域包括支援センターと協力しながら進めていく。